

平成26年度 国営事業再評価技術検討会(第1回)議事録

1. 開催日時:平成26年6月5日 開会 午前 9時00分

閉会 午前11時30分

2. 開催場所:YYY伊江リゾート会議室

3. 出席者: 技術検討委員 吉永 安俊 国立大学法人琉球大学名誉教授

〃 井口 千秋 井口税理士事務所所長

〃 幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役社長

〃 内藤 重之 国立大学法人琉球大学農学部教授

委員 伊元 武信 総務調整官

〃 原 孝文 農政課長

〃 寺尾 和彦 土地改良課長

幹事 石丸 彰子 課長補佐(企画)

〃 仲村 元 課長補佐(整備)

〃 金子 誠 企画指導官(経済資源)

事務局 森田 賢治 水利整備係長

〃 高村 政史 土地改良企画係長

<伊江農業水利事業所担当>

仲間 雄一 伊江農業水利事業所長

中司 昇吾 伊江農業水利事業所調査設計課長

外間 昇 伊江農業水利事業所企画官

北村 知周 伊江農業水利事業所設計係長

開会

○司会(寺尾課長) 定刻になりましたので、ただいまから国営事業再評価技術検討会(第1回)を開催致します。委員長が選出されるまでの間、私のほうで進行をさせていただきますのでよろしくお願い致します。開会に当たりまして、総務調整官の伊元より御挨拶を申し上げます。

○伊元総務調整官 皆さん、おはようございます。総務調整官の伊元でございます。

本来であれば、農林水産部長の幸田が御挨拶申し上げるところではございますが、御案内のとおり本日は所用で欠席になっておりますので、私のほうから代わりに御挨拶させていただきます。

まず、委員の皆様には大変お忙しい中、また日頃から沖縄の農林水産業の発展に御尽力いただき、誠にありがとうございます。改めまして感謝の意を申し上げます。

御承知のとおり国の方では、昨年12月に農林水産業地域の活力創造プランを策定し、農業を足腰の強い産業に育てるため、農業の有する多面的機能の維持拡大を図るということ、それから後継者の育成も含めて課題の解決に向け鋭意政策検討へと取り組んでいるところでございます。その中でも特に担い手の農地の集積、集約化を加速させるため、農地中間管理機構、それから日本型の直接支払制度の創設により、農地が農地として維持される、将来にわたって多面的機能が十分に発揮、確保されるということを目指して取り組んでございます。御協力、御理解をお願いします。

さて、本日の国営事業再評価技術検討会は、事業採択後、10年が経過した時点で、事業の実施過程を踏まえた取り巻く社会情勢の変化等について点検し、事業実施の妥当性について総合的かつ客観的に再評価するというものでございます。本年度26年度につきましては、国営かんがい排水事業地区の伊江地区が対象となっております。再評価の案につきましては、後ほど事務局から説明がでございます。委員の皆様には忌憚のない御意見、御指摘等を出していただきたいと思います。その結果を踏まえまして、次の技術検討会に反映していきたいと考えております。なお、本日の検討会は立原委員が別の会議があるということで欠席です。また内藤委員もこのあと別の会議があるということで、中座されるということで聞いております。お二人の方には、後日個別訪問し、事務局から説明していきたいと考えております。委員の先生方にはいろいろと御意見、御指導等をお願いしたいと思います。本日はよろしく申し上げます。

○司会(寺尾土地改良課長) ありがとうございます。それでは、ここで資料の確認をお願いしたいと思います。議事次第、出席者名簿一覧、資料の1から5まで配付されているかと思っておりますので、御確認いただければと思います。不足等があれば、お知らせいただければと思います。

それでは、議事次第に従いまして進めていきたいと思っております。まず、議事(1)の国営事業再評価技術検討会委員長を選任でございまして、委員の皆様方によりまして、互選により選出させていただきたいと思っておりますが、いかがでございでしょうか。

○各委員 事務局案がございましたらどうぞ。

○司会(寺尾土地改良課長) それでは、事務局の方では、吉永委員に委員長をお願いしたいということで考えておりますが、いかがでございでしょうか。

○各委員 異議なし。

○司会(寺尾土地改良課長) ありがとうございます。御賛同いただき、吉永委員が本検討会の委員長に選出されたということでお願いしたいと思います。

それでは、ここで吉永委員長から一言御挨拶をいただきたいと思っております。また、これから以降も議事進行については委員長のほうにお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長(吉永委員長) 事務局の御推薦ですので、これから進行役を務めてまいりますのが、御協力よろしく申し上げます。それでは、議事次第に沿って進めてまいりたいと思っております。議題(3)国営事業再評価技術検討会の公開方法について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局(金子企画指導官) 事務局の沖縄総合事務局土地改良課の金子と申します。よろしく申し上げます。本技術検討会の公開方法につきまして私のほうから提案させていただきます。

まず、本技術検討会の公開につきまして傍聴については可とし、議事次第のみを配布。資料については閲覧方式を考えております。それから検討会資料につきましては検討会終了後、沖縄総務事務局のホームページにて公表したいと考えております。また、議事録につきましても検討会終了後に発言者を明記の上、ホームページにて公表したいと考えております。

今回この技術検討会を2回行った後に最終として取りまとめる再評価結果につきましては、8月末に農林水産省のホームページにて公表したいと考えております。以上、公開方法等について御提案いたします。

○委員長(吉永委員) ただいま事務局のほうから説明がありました事項について、了承したいと思います、いかがでしょうか。

○各委員 異議なし。

○委員長(吉永委員長) よろしいですか。それでは、公開方法については了承されたものといたします。

○事務局(金子企画指導官) 補足として説明させていただきます。今回この検討会につきましては事前にホームページで傍聴希望者を募集しましたところ、伊江村の方から傍聴希望がありました。しかし、先ほど、村の方から急遽所用ができたということで、傍聴を取り止めたという連絡がありましたので、ご報告させていただきます。

○委員長(吉永委員長) わかりました。本日は、傍聴者もプレスもないということですね。

それでは、次に進めたいと思います。議題(4)の国営かんがい排水事業伊江地区再評価(案)について、説明をよろしくお願いいたします。

○中司調査設計課長 伊江農業水利事業所、調査設計課長の中司です。私のほうから資料に基づいて再評価(案)のほうを説明させていただきたいと思います。

<以下、資料1から3を説明>

○事務局(森田係長) 土地改良課の森田と申します。資料4の関係団体の意見について説明させていただきます。

<以下、資料4を説明>

○委員長(吉永委員長) 事務局からの説明はこれで終わりですね。それでは委員の皆さんから意見を伺いたいと思いますが、少し休憩をはさみたいと思います。

<休憩 午前10時05分～午前10時15分>

○委員長(吉永委員長) それでは、再開致します。委員の皆さん、質問あるいは御意見がありましたらお願いいたします。

○委員(幸喜委員) 大変詳しい御説明を承りました。昨日の視察も含めた印象としまして、伊江島の農業は非常に先行き明るく県内でも本当にトップクラスの農業地域であるということを実感しております。また、認定農業者の数が増えていること、受益地域が着々と計画どおり進行しているということなど大変力強い思いでございます。その中で少し気になったことを教えていただきたいのですが、農産物等の動向のところで、単位当たり収量の変化において、さとうきびが10%増ということになっていますが、これはどういう理由で増えているのかということをお教えいただけますか。

○中司調査設計課長 さとうきびにつきましては、かん水することによって増収が見込まれる作物になっております。伊江地区におきましては先行して進められている畑かん事業などで、ある程度、既存のため池を使った用水供給が行われるようになっていきます。その効果が一部出てきている可能性はあるのではないかと考えています。

その他の作物では減になっておりますが、資料3の27ページの資料は、伊江村と沖縄県の資料を活用させていただいております。さとうきび、とうがん、葉たばこについては、伊江村のデータになっています。市町村別の生産量の統計が近年整理されていないことから、かんしょ、チンゲンサイについては、沖縄県全域の収量で整理いたしました。

全域としまして、減少傾向にあると思うのですが、トータル的に農業者の高齢化の進行に伴って、集約的な作業が必要なものについて、管理面で多少影響が出ているのではないかと推測されます。

特に関係するとうがんににつきましては、昨日ご説明いただいた農家にも伺ってきたのですが、近年、大玉から小玉化が進められているという話もあります。また作業上、従来は場に密集させてとうがンを植えていたのですが、軽トラックなどの作業車がほ場の中に入って作業をした方がやりやすいということで、畝の間隔を広げて、生産しているということで、収量も多少、面積当たりで減少している影響が出ているのではないかと考えています。

また、葉たばこについては、伊江村の主要な作物であり、近年、高齢化の進行もありまして、農業者数が減少してきているということで、管理という面から多少数字として減少している可能性があるかと思います。

また、気象の状況によっても変わってきますので、一概には言えませんが、そのようなことが影響していると言えるのではないかと考えております。

○委員(幸喜委員) どうもありがとうございました。よくわかりました。そのまま続けてよろしいですか。

○委員長(吉永委員長) どうぞ。

○委員(幸喜委員) 受益地でこれまで利用している既存の古い施設(ため池、水路等)は、地下ダム利用により廃止してしまうのでしょうか。

○仲間事業所長 先ほど、効果の説明で廃用損失というのが出てきたのですが、基本的に既存の施設はそのまま使うようにしています。ただ、古いものは直したりとか更新しますが、その費用は、事業費として見込んでおります。

○委員(幸喜委員) そういうことですね、わかりました。

○委員長(吉永委員長) 井口委員、どうぞ。

○委員(井口委員) 今回参加させていただき、資料及び現地を拝見して、本当に今回の事業は有益ですばらしいものだと感じてます。その中で少しお伺いしたいのが公開方法についてです。先ほどホームページで公表とおっしゃってましたが、公開する資料はどちらの資料になるかを教えてください。

○事務局(金子企画指導官) 公開するのは、資料1の再評価の概要(案)、それから資料2の事業の効用に関する説明資料のほうになります。

○委員(井口委員) 今回の事業の効果を興味のある方にいろいろ理解していただきたいと思いますが、少し気になるのが資料3の13ページ地域農業の状況データ、15ページの農業産出額の動向データ、30ページの作物生産効果データで、それぞれで表示されている農作物の種類に統一性がないので、目的と効果と現在のデータの関連性が少し読みづらい感じがします。元となるデータがなければ仕方がないと思いますが、私みたいな素人が見たときに、分かりづらいと感じました。

○委員長(吉永委員長) 作目がバラバラ、統一性がなく比較がしづらいという御意見だと思います。データが把握できるのであれば、作目を統一してほしいという御意見です。

関連して、私のほうから30ページの作物生産効果データで、安定した用水供給により見込まれる増収率という部分ですが、用水供給前というのは、全くかん水していないところなのか、あるいは既設のため池からある程度、水をかけている場合との比較なのか、どちらなのでしょう。昨日のとうがん農家さんも「水をかけないとなかなか収穫できない。」と言われていました。ですから、とうがん農家というのは、ある程度水を必要としていると思います。この比較はどういう状況を比較しているお伺いしたいです。

○中司調査設計課長 作物生産効果の試算に当たっては、実際の計算上はエリアごとに効果を計算します。畑かん施設の整備されているエリアについては、もう既に水が供給されているということで、そのエリアの面積については増収の効果を見込んでいません。この単収増加率の数値は、実際の農場試験場で無かん水の栽培と、かん水を行った場合の試験データを活用しており、これ自体は無かん水のものとかん水しているものの比較で、従来畑かん施設の整備がされていないエリアについてはこの増収率を使っています。既に整備されているエリアについては100に対して100として計算しています。

考え方が作物によって違うということであり、本来ならば、ここに主要な作物である花きとかを掲載すればいいのですが、花きについては従来からかん水をしないと栽培できませんので、現在栽培されているエリアについては、かん水を行っているということを前提にかん水による作物の増収効果を見込んでいません。増収効果を見込んでいる作物だけ、ここに掲載しております。

一方で前のページの単収の変化とか価格の変化については、こちらのほうも作物の増収効果を見込んでいるものを中心に掲載させていただいております。そのため、この場合掲載している作物が、別の項目では出てきていないという不整合が生じておりますので、整理の仕方については検討したいと思います。

○委員長(吉永委員長) ありがとうございます。また関連して、花きについてですが、昨日のきく農家さんの話だと、「除塩をしないと売り物にならない。」というお話でした。ですから、花きについては、水分供給だけでなく、除塩、薬液、防除含めた効果というのは評価できないのでしょうか。

○外間企画官 現在の事業計画では、かんがい用水ということで、生育に必要な水をかけるという計画になっており、水の量自体も、効果上も除塩というのはダムの用量には見込んでいないため、効果として算定しておりません。

ただ、実際には除塩の用水も使っている実態があるということでございます。例えば宮古では、台風が来て、その後すぐスプリンクラーで除塩している例はあるのですが、効果としては、そこまで見込んでないということでございます。

○委員長(吉永委員長) 見込んでほしいですね。

○外間企画官 いろいろデータを収集してみます。

○委員長(吉永委員長) 水源が確保できれば、かんがい供給だけではなく、多目的利用法という観点からも除塩等をしてもいいのではないかと思います。それともう一つ、投資効率の算定において、総合耐用年数43年となっておりますが、これはどのような算定方法でしょうか。

○中司調査設計課長 総合耐用年数については国営で整備する事業と関連事業で整備する事業の全ての工種を総合的に表記する方法があります。工種により例えば水路であれば40年、地下ダムであれば80年とか、工種ごとに耐用年数があるのですが、それにそれぞれの事業費をかけ合わせ、案分するような形で総合的に算定すると43年ということです。

○委員長(吉永委員長) ありがとうございます。他にございますか。井口委員どうぞ、お願いします。

○委員(井口委員) 工芸作物というと、具体的に何の作物でしょうか。

○事務局(金子企画指導官) 葉たばこ、さとうきびになります。

○委員(井口委員) 資料1の3ページのまとめのところに、工芸作物と書いてありますが、これは葉たばこのことを示しているのですか。

○事務局(金子企画指導官) 分かりにくいので表現を統一する方向で修正します。

○委員長(吉永委員長) よろしく申し上げます。他にどうぞ。

○委員(幸喜委員) 資料3の15ページに関し、お伺いしたいのですが、平成12年から平成22年度の農業産出額について、平成22年という、既に事業が済んでいるところもあると思います。そういう中で20%産出額が減少しています。それから、16ページの総農家数、販売金額及び経営耕地面積の規模別農家数ですが、そこでも平成12年から22年にかけて総農家数が21%減少しています。このような減少している状況というのは、どのような要因が考えられるのでしょうか。

○中司調査設計課長 農業産出額について沖縄県と本地域を比較しますと、沖縄県は横ばいで、本地域が下がっているように見えますが、ここでは10年間のグラフで掲載しておりまして、まずは長期的な目で見ますと、沖縄県のほうの産出額については、昭和60年代ごろまでは増加傾向、100億円を超える農業産出額でありました。しかし、それ以降減少し、平成8年以降、100億円下回っています。その後、この10年間横ばいで推移しています。沖縄県のほうの分析によりますと、海外からの輸入作物との競合、また高齢化等によって沖縄県においても厳しい状況で推移しているとのこと。そのような中で伊江村においては、平成12年以降減少しておりますが、平成10年頃までは増加傾向にあって、沖縄県より少し遅れて減少しているという傾向になっています。

伊江村は若手農家も多いですが、高齢化が進行してくる中で農業者数の減少が20%減となっています。しかし一人当たりの産出額については変わりません。農家さんの減少に伴って、農業産出額も減少してきているのではないかと考えます。

また、一方で農家当たりの農業産出額と面積当たりの産出額について、沖縄県と伊江村を比較しますと、一人当たり、伊江村は約700万円になります。一方で沖縄県は約400万円ということで、もともと高い水準にあります。農業者の減少などが影響し、このような形で数値が出ているのではないかと考えてます。

○委員(幸喜委員) どうもありがとうございます。感覚的には今後減少し続ける状況が続くのかもしないけれども、今おっしゃったように年収700万円ぐらいの農業収入がずっと継続して見込めるだろう、あるいは700万円以上に増加するということもあり得るだろうということでしょうか。

○中司調査設計課長 国営、関連事業が完成すると、用水施設の手当がされます。従来ですと、Ⅲ型の給水所からトラックで水を運搬して用水を供給しており、一人当たりの管理できるほ場の面積が、時間的に限られるということがあります。しかし、給水栓などが整備されると効率的な営農を展開して、担い手さんへ農地の集積を図っていくことになります。

また、農地を維持するということと、収益性の高い、特に水の必要な、とうがんや花きなどの生産にシフトしていくことによって、この国営事業を契機として、収益性の高い農業の展開というのも今後も図っていかないと考えております。

○委員(幸喜委員) どうもありがとうございました。

○委員長(吉永委員長) 関連ですが、資料3の15、16ページの伊江島の農業産出額や総農家数の減について、その背景には、耕作放棄地の増加があるのでしょうか。あるいは先ほどの高齢化のために水も十分かからない、それから肥培管理も十分やれない、それで農地面積が落ちた、その影響も考えられると思います。いろんな考え方があるはずなんですけれども、最も大きな原因というのは何でしょうか。

○仲間事業所長 今回の説明の中でもありましたが、農地面積は減っておりませんが、農家数は減っています。つまり農地が集約化しているということです。農業産出額の減については、細かいところまで分析できていませんが、葉たばこの方が減っていることが大きいかと考えています。

昨日、現地を見ていただいたように、耕作放棄はほとんどございません。つまり、農家が減った分は、どなたかが耕作し、農地の規模拡大は進んでいると考えてます。今後、水がさらに使え、運搬しなくて済むようになる

と、きく等の水を必要とする作物が、更に増えてくるのではと期待しているところです。

○委員長(吉永委員長) 畜産農家の採草地が結構増えておりますね。採草地を産出額に換算するときは、どのような方法でやっているのですか。例えば生産単位は飼料だと思うのですが、そういう飼料の生産額というのはわかだと思ひます。やはり、それも牛の値段とかに換算して算出しているのですか。

○中司調査設計課長 農業産出額の統計については、伊江村で使っている統計として、出荷額になる形で整理されたものを使っています。牧草について自家消費しているのであれば、牛の販売金額としては含まれているんですけども、その飼料作物に換算して幾らかという産出額は含まれていません。

○委員長(吉永委員長) 他にありましたら、お願いします。

○委員(幸喜委員) 先ほど里芋というのが出ていましたが、伊江島で産出される里芋というのは全県で見ると、どのくらいの割合なんでしょうか。

○中司調査設計課長 データを持ち合わせていませんが、沖縄県の収穫量に対する里芋の比率は資料3の13ページに掲載させていただいている2.7%です。

○委員(幸喜委員) わかりました。ありがとうございます。沖縄では里芋は法事、お祝いの料理には欠かせない大変高価な食材です。伊江村でもそういう里芋の生産が広がることを期待しております。

○委員長(吉永委員長) 私のほうから1つ。資料3の34ページと35ページのファームポンドの景観についてですが、石張りというのはコスト削減には非常に効果的だと思うのですが、景観的に石張りが本当にそれなのか少し疑問があります。どのような考えなのでしょう。

○中司調査設計課長 ファームポンドの整備については景観に配慮するということで、環境配慮計画を策定して取り組んでまいりました。その中でも複数案ありまして、例えばこの盛土をするところに植栽を行って緑の芝を張って景観に配慮したほうがいいのかという案、またこのように石張りを行って景観に配慮するという案がありました。

複数の案について、伊江村また県などの会議の中で調整を行った結果、維持管理の観点から、芝張りより石張りの方がよく、また、グスク山の色合い、周辺風景との調和という観点からも石張りはいのではないかということで、調整の結果このような形になりました。

また、関係する地域の皆さんにも案を示した上で整備してきましたが、今後は、ファームポンド周辺に植栽する計画であり、具体的には、周辺整備の中で検討していきたいと思っております。

○委員長(吉永委員長) ありがとうございます。他にありますか。

○委員(幸喜委員) 宮古島の地下ダムの周辺は公園になってますよね。それで休日には住民の皆さんがピクニックしたり、憩いの場になってますが、伊江村でも将来的に、そのような計画はおありなのではないか。

それと併せて、今度は別の視点なのですが、伊江村は今、民泊で大変本土からの修学旅行生、あるいは本島からの修学旅行生で年間を通して賑わっていると思ひます。そういう児童生徒の皆さん方を対象に、この地下ダムについての、あるいは伊江村の農業施設についての学習の場となるようなもの、あるいは昨日見学させていただいた地下から堀り上げた石などを展示し、将来の農業の担い手になるような児童生徒たちの教育の場となるような、そういった視点から計画を考えていただけるとありがたいと思っております。以上でございます。

○中司調査設計課長 頂いたご意見については、非常に重要な意見だと感じておりまして、他地区では地下ダムの水が見える施設を造ったり、地下ダムの意義なども説明できる施設を整備している事例があります。

伊江地区については止水壁が地上から10メートル〜20メートル下にあるということで、実際水を見る施設の

整備は難しいものがあります。そのような中、伊江村と協議を進める中で、地下ダムのPR、普及につながるような展示はできないかというような声も挙がってます。現在、事業所のほうで検討してますのが、中央管理所、先日グスク山からご覧いただいた施設がありますが、中央管理所の施設については現在行っている工事が伊江村との共同工事であり、何らかの展示物を展示するようなスペースを確保して、そこを学習の場、展示の場の拠点として整備する検討を進めております。

また、地上に見える施設が少ないですので、そういった学習につながるような展示、看板といったことはまた今後検討したいと考えています。

○委員(幸喜委員) 修学旅行生のコースの1つになれるといいですね。

○委員長(吉永委員長) これは是非やっていただいて欲しいです。これだけ多く、本土からの子供たちが来ますよね。こんな大規模な地下ダムは沖縄にしかないのも、それを見てきたということは、非常に大事な勉強になると思います。ぜひそういう学習の場を将来作っていただきたいなと思います。

○委員長(吉永委員長) 他に御意見、ありましたらお願いします。

○委員(幸喜委員) 昨日見学させていただいた農家さんのケースなのですが、一方は水が来ていて、一方はこれからなのですが、あと2年の間に給水栓施設等はすべて完了できるのでしょうか。

○中司調査設計課長 国営の施設についてはあと2年で完了する予定になってます。給水栓の整備は関連する県営事業と団体営事業で整備しておりまして、関連事業については、国営事業の完了後も引き続き実施していくことになっております。関連事業が全て終了すれば、全てのエリアに水が届くということになります。

○委員(幸喜委員) 農家お二人とも非常に生き生きし、何か喜んで仕事に従事しておられるという強い印象があります。総合事務局でも、彼らの力強い後押しをしていただきますようお願いしたいと思います。

○委員長(吉永委員長) 以上をもちまして、審議を閉じたいと思います。その他について、事務局をお願いします。

○事務局(金子企画指導官) 事務局から国営事業再評価技術検討会の今後のスケジュールについて、提案したいと思います。

これまでの経緯といたしまして、5月8日内部幹事会を開催し、19日に事業管理委員会を開催しております。この委員会終了後に、関係機関への意見聴取を実施しまして、昨日と本日、第1回技術検討会、それから現地調査を開催しております。

今後、この検討会でいろいろ御指摘等をいただきました内容について再度整理いたしまして、次回第2回技術検討会にお諮りしたいと考えております。第2回技術検討会は、今後、内部幹事会と委員会を通じて内容等を確認、整理して進めまして、7月14日の週あたりに第2回の技術検討会を開催できないかと考えております。先日、この技術検討会に先立ちまして、各委員の方にスケジュール確認をさせていただいておりますが、そのときは7月16日水曜日の午後あたりがご都合が良い方が多かったと思います。

○各委員 それで、結構です。

○事務局(金子企画指導官) 3人の先生方からは、ただ今、了解を頂きました。それから、内藤先生は、当日16時から予定があるということですが、15時までであれば大丈夫だと聞いております。立原先生につきましては残念ながらまだ確認がとれておりません。この後の個別説明で、立原先生に確認したいと思っております。後日、先生方、総合事務局、伊江事業所を含む全体的なスケジュールを確認した上で、再度御連絡差し上げたいと考えてますので、よろしくお願いいたします。

○委員長(吉永委員長)　ありがとうございました。次回の委員会は再評価の案について関係団体の意見も汲むと同時に、意見のまとめをしていきたいと思います。それでは、検討会はこれで終わりにしますので、事務局にお返しします。

○司会(寺尾土地改良課長)　どうもありがとうございます。委員の皆様方には昨日の現地調査から本日の今まで、長時間にわたりまして御対応いただきまして、大変ありがとうございます。先ほどありましたように次回の第2回技術検討会に向けまして、本日いただきました御意見、御指摘等について修正を加えて、次回の際にはそれを反映したものでお諮りしたいと思います。

それと関係団体の意見についても先ほどありましたように整理した形にしたいと考えております。

日程については先ほどありましたが、最終的には開催通知を改めて出させていただきますので、対応よろしく願いいたします。

以上をもちまして、第1回の国営事業再評価技術検討委員会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。